

第1回 都市文化施設の革新 —ポンピドゥー・センターの軌跡

岡部 憲明

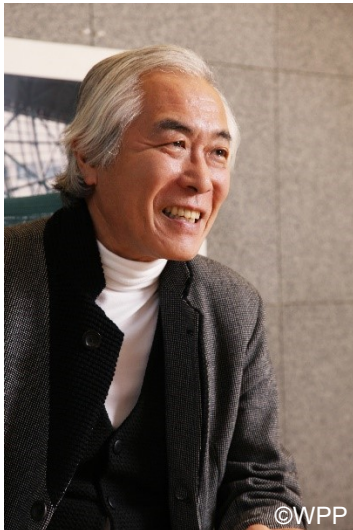
2019年12月11日 講演の概要

パリの近代美術館、公共公開図書館、音響音楽研究所、シネマテークなどを含む複合文化施設ポンピドゥー・センターは、1977年1月31日に開館し、今日40年余りを経て多彩な文化活動をダイナミックに継続している。ノートルダム寺院に近いパリの街の中心に生まれた大規模文化施設は、都市のノード（結節点）として文化の側面のみならず、都市の中核をつくる都市計画上の役割も果たしている。センターに隣接するレ・アール地下駅は、地下鉄、高速郊外鉄道（RER）の拠点であり、パリの中心と郊外を短時間で結ぶ。この立地によりポンピドゥー・センターは、パリの広域地域に対しても有効な文化施設となっている。

今回の講演では、ポンピドゥー・センターのデザインチーム Piano & Rogers での設計、建設、その後の拡張計画、改修、展示計画に関わった経験を踏まえながら、文化施設の革命ともいえるポンピドゥー・センター設立から今日に至る足どりについて、文化政策、都市計画、建築デザイン、建設プロセスなどの様々な活動にふれる。

岡部 憲明 氏 プロフィール

建築家／岡部憲明アーキテクチャーネットワーク 代表



1947年静岡県生まれ。早稲田大学理工学部卒業。フランス政府給費研修生として渡仏後、レンゾ・ピアノと20年間にわたり協働、ポンピドゥー・センター、IRCAM音響音楽研究所の設計に従事。1995年に岡部憲明アーキテクチャーネットワークを設立。神戸芸術工科大学教授（1996 - 2016）。代表作に関西国際空港旅客ターミナルビル、牛深ハイヤ大橋、小田急ロマンスカーVSE、MSE、GSE、箱根登山電車アレグラ号、大山ケーブルカー、在東京ベルギー大使館など。著作に『エッフェル塔のかけら』『空間の旅』『関西国際空港旅客ターミナルビル（監修）』など。